

【確定版】

平成31年4月22日

# 「気になる生徒」への支援の充実について

～登校支援と特別支援教育の充実～

練馬区立大泉西中学校



## もくじ

- 1 気になる生徒への支援に関わる基本的な考え方 P2
  - (1) 気になる生徒とは・・・
  - (2) 大泉西中学校における「気になる生徒への支援」に関わる基本的な考え方
  
- 2 取組の具体 P4
  - (1) きめの細かい状況把握
  - (2) 学校生活に適應するための自立支援
  - (3) 関係機関との連携強化
  
- 3 気になる生徒への支援の流れ P14
  - (1) 年間の支援の流れと必要書類について
  - (2) ほっとルームにおける指導開始の流れ
  - (3) 特別支援教室（巡回指導）や適應指導教室における指導開始の流れ

# 1 「気になる生徒への支援」に関わる基本的な考え方

## (1) 気になる生徒とは・・・

「気になる生徒」とは、学校教職員では、原因が分からないが、以下のような状況が見られる生徒。

- ・学校を休んでいる（休み傾向にある）生徒
- ・日常の学校生活で困っている様子がうかがえる生徒
- ・友人関係等で困っている様子がうかがえる生徒
- ・学業等の不振に陥っている生徒
- ・その他、教職員が学校生活全般において気になる言動等がある生徒 等

## (2) 「気になる生徒への支援」に関わる基本的な考え方

- ① きめの細かい状況把握
- ② 学校生活に適応するための自立支援
- ③ 関係機関との連携強化

### ① きめの細かい状況把握

- ・校内委員会※<sup>1</sup>を中心とした生徒の情報収集
- ・スクールソーシャルワーカー（大泉西中学校担当）等との情報交換
- ・多様な方法による生徒のみとり
- ・保護者面談等を中心とした、生徒の状況把握と本人及び保護者の願い等の共有

### ② 学校生活に適応するための自立支援

- ・保護者と協働した「支援計画等」の作成と活用
- ・だれにも優しい、ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備
- ・「ほっとルーム（校内適応指導教室）」を活用した自立支援

### ③ 関係機関との連携強化

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による面談
- ・教育機関（巡回指導、教育相談室、適応指導教室等）との連携
- ・他の専門機関（医療、福祉）との連携



## 注釈

※1 校内委員会とは、本校に定義による「気になる生徒」について、当該生徒の状況把握を行い、その生徒への個別的具体的な支援策を講じる委員会のこと。また、合わせて、全教職員の登校支援や特別支援教育に関わる資質・能力の向上を目指すための研修計画等を立て、実施する。

＜参考＞練馬区教育委員会 不登校対策方針（平成31年4月）

**理念**

- 一人ひとりの状態に寄り添う
- 一人ひとりの自立を助ける
- 一人ひとりを人や社会につなげる

- ① 未然防止 ～新たな不登校児童生徒を生まないために～
  - ・新たな不登校を発生させないために、人間関係形成力向上授業プログラムを実践する。
  - ・不登校児童生徒に関わる支援者の資質・能力の向上に向けた研修を実施する。
  - ・児童生徒の不安や悩みを早期に発見する仕組みや校内での情報共有を図るために校内委員会をより一層機能させる。
  - ・生活リズムを崩して不登校にならないよう、「早寝、早起き、朝ごはん」など望ましい基本的な生活習慣の定着を図る。
  - ・学業不振で不登校にならないよう、「地域未来塾」を活用した基礎学力の定着の取組を推進する。
- ② 初期対応 ～登校渋り、遅刻や早退をしがちな児童生徒を不登校にさせないために～
  - ・教育相談と初期対応を充実するために児童生徒との関わり合いをもつ支援者を充実させる。
  - ・スクールソーシャルワーカーの学校担当制を活用し早期の段階から校内支援を図る。
  - ・学校と教育委員会との報告・確認・支援のシステム構築のために「児童生徒支援シート」を活用する。
- ③ 再登校支援 ～学校復帰につなげるために～
  - ・適応指導教室を拡充する。
  - ・ICT等を活用した自主学習の取組を推進する。
  - ・フリースクール等と学校、教育委員会の連携を図る。
- ④ 社会につながる支援 ～全欠席の児童生徒や家庭と連携できないケースのために～
  - ・「児童生徒支援シート」を活用し、関係支援会議の中で現状を確認し、支援方針を立て、支援を行う。
  - ・スクールソーシャルワークを派遣依頼型に加え、学校訪問型を実施し、学齢期間の継続した本人および家庭支援を実施する。



## 2 取り組みの具体

### (1) きめの細かい状況把握

#### ①校内委員会を中心とした生徒の情報収集

目的：「気になる生徒一覧」※2を作成し、リストアップされた生徒に対する支援レベル※3に応じた、個々への支援策を講じる

回数：毎週1回

参加者：管理職、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター4名  
他（必要に応じて、巡回指導員、特別支援教室専門員、学校生活支援員、心ふれあい相談員等）

#### ②スクールソーシャルワーカー（大泉西中学校担当）等との情報交換

回数：毎月1回程度（個別の支援会議は除く）

参加者：管理職及びスクールソーシャルワーカー

内容：個別の支援に関わる進捗等

#### ③多様な方法による生徒のみとり

##### ・担任等によるみとり

登校状況、友人関係、日常における会話・行動・学習状況等

##### ・生徒の学習と行動の理解シート（アセスメントシート）※4

聞く、話す、読む、書く、計算・推論、粗大運動、微細運動、注意、他動・衝動感情の抑制、社会性

##### ・スクールカウンセラー等の専門家による面談や行動観察

##### ・心理検査等による状況の把握（本人及び保護者の意思による）

#### ④保護者面談等を中心とした、生徒の状況把握と本人及び保護者の願い等の共有

##### ・担任や学年教員、管理職との面談による家庭での状況把握

### 注釈

#### ※2 気になる生徒一覧

番	年	組	番	氏名	不登校 特別支援	支援レベル	出欠	学業(順位)				家庭の状況	担任等のみとりによる現在の状況	発達検査等	学習・行動理解シート(5点中)									スクールカウンセラー等 専門家の意見	外部機関等	備考			
								国	数	英	理科				聞く	話す	読む	書く	計算	推論	粗大運動	微細運動	注意				多動	衝動	抑制
例	3	F	17	中山 兼一	不登校	3	38日中 28日欠 6月現在					保護者は非常に学校への理解があり、不登校改善に前向きである	不登校によりトライに入室するも続かず、現在は、家にもりがち。2年生時は、友だちとのトラブルも多く、興奮すると暴力行為が出てしまった。学力については、小学校程度のところで止まっている。	なし	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	なし	トライ教育相談室	
1																													

#### ※3 大泉西中学校における「気になる生徒」への支援レベル

レベル1	巡回指導教員や臨床発達心理士等の助言に基づく、教科、学年、学級担任の指導法の工夫等により、生徒が抱えている困難さへの対応が可能と思われる程度（ユニバーサルデザイン化や個別支援の強化等）
レベル2	校内・外の人的資源等を活用することにより、生徒が抱えている困難さへの対応が可能と思われる程度（「ほっとルームの活用」を含む）
レベル3	特別支援教室での特別な指導や適応指導教室等（トライ等）などの外部教育機関との連携が必要と思われる程度

※4 生徒の学習と行動の理解シート（アセスメントシート）

**生徒の学習と行動の理解シート(中学生用)**  
 下記の項目を見て、あてはまる数値をクリックしてください。  
\*「ふつう」・・・学年相応と考えられるレベル

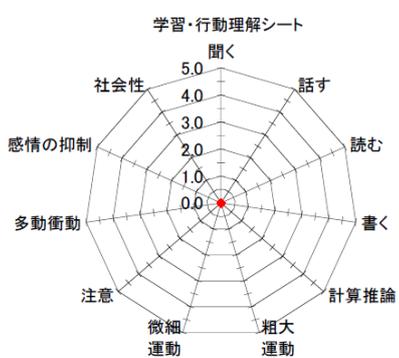
	かなりよくできる	よくできる	ふつう	できないことがある	全くできない	値
1 聞く	① 個別に出された口頭の指示を聞いて行動できる	○	○	○	○	0
	② 一斉の指示を聞いて行動することができる	○	○	○	○	0
	③ 学級や班での話し合いを聞いて理解できる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
2 話す	① 自分の意志を適切に伝えることができる	○	○	○	○	0
	② 経験したことを順序よく、簡潔に話すことができる	○	○	○	○	0
	③ スムースに話すことができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
3 読む	① 2学年下の漢字が読める	○	○	○	○	0
	② 短文の理解や記述してある事実の理解ができる	○	○	○	○	0
	③ 文字の読み飛ばしや読み違いがなく音読する	○	○	○	○	0
	④ アルファベットが読める	○	○	○	○	0
	⑤ 英単語（中1程度）が読める	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
4 書く	① 板書事項を正確に、かつ時間内に書き写すことができる	○	○	○	○	0
	② 小4程度の漢字が書ける	○	○	○	○	0
	③ 自分の考えを漢字混じりで書くことができる	○	○	○	○	0
	④ アルファベットや英単語（中1初期程度）を聞いて正しく書ける	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
5 計算・推論	① 2桁のくり上（下）がりの加減を暗算でできる	○	○	○	○	0
	② 整数2桁の程度の四則計算を解くことができる	○	○	○	○	0
	③ 定規やグラフの目盛りの読み取りができる	○	○	○	○	0
	④ 基本的な文章題の意味を理解して立式できる	○	○	○	○	0
	⑤ 簡単な地図が理解できる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	

	かなりよくできる	よくできる	ふつう	できないことがある	全くできない	値
6 粗大運動	① 縄跳びやキャッチボールができる	○	○	○	○	0
	② マット運動ができる	○	○	○	○	0
	③ 全力疾走ができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
7 微細運動	① はさみで曲線等を正確に切ることができる（丸・三角程度）	○	○	○	○	0
	② 針に糸を通すことができる	○	○	○	○	0
	③ 箸で物（豆や豆腐）をつまむことができる	○	○	○	○	0
	④ 楽器の操作ができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
8 注意	① 作品やプリントを最後まで仕上げるることができる	○	○	○	○	0
	② 机やかばんの中を整理整頓ができる	○	○	○	○	0
	③ 持ち物を紛失したりせずに管理ができる	○	○	○	○	0
	④ 他のことに気を取られず、ひとつのことに集中できる	○	○	○	○	0
	⑤ 人の話に注意を向けて最後まで聞くことができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
9 多動・衝動性	① 私語をせず、授業中前を向いて座っていることができる	○	○	○	○	0
	② 周囲の様子を見ながら落ち着いて行動することができる	○	○	○	○	0
	③ 手いたずら等をしないで過ごすことができる	○	○	○	○	0
	④ 順番を待つことができる	○	○	○	○	0
	⑤ 話の途中で割り込んだりせずに最後まで人の話を聞いていることができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	
10 感情の抑制	① 急な予定変更にも順応して行動することができる	○	○	○	○	0
	② パニックを起こさずに感情を抑えることができる	○	○	○	○	0
	③ 何かに固執しないで行動することができる	○	○	○	○	0
	④ 状況や相手の気持ちを理解することができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	

	かなりよくできる	よくできる	ふつう	できないことがある	全くできない	値
11 社会性	① ルールを守って友達との遊びやスポーツができる	○	○	○	○	0
	② 友達と協力した班行動ができる	○	○	○	○	0
	③ 場の状況にふさわしいあいさつや返事ができる	○	○	○	○	0
	④ 場の状況をわきまえた行動ができる	○	○	○	○	0
	⑤ 相手に合わせた適切な言葉遣いができる	○	○	○	○	0
	⑥ 最後までやり遂げることができる	○	○	○	○	0
	平均	0.0		合計	0	

各領域の平均得点

聞く	話す	読む	書く	計算推論	粗大運動	微細運動	注意	多動衝動	感情の抑制	社会性
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



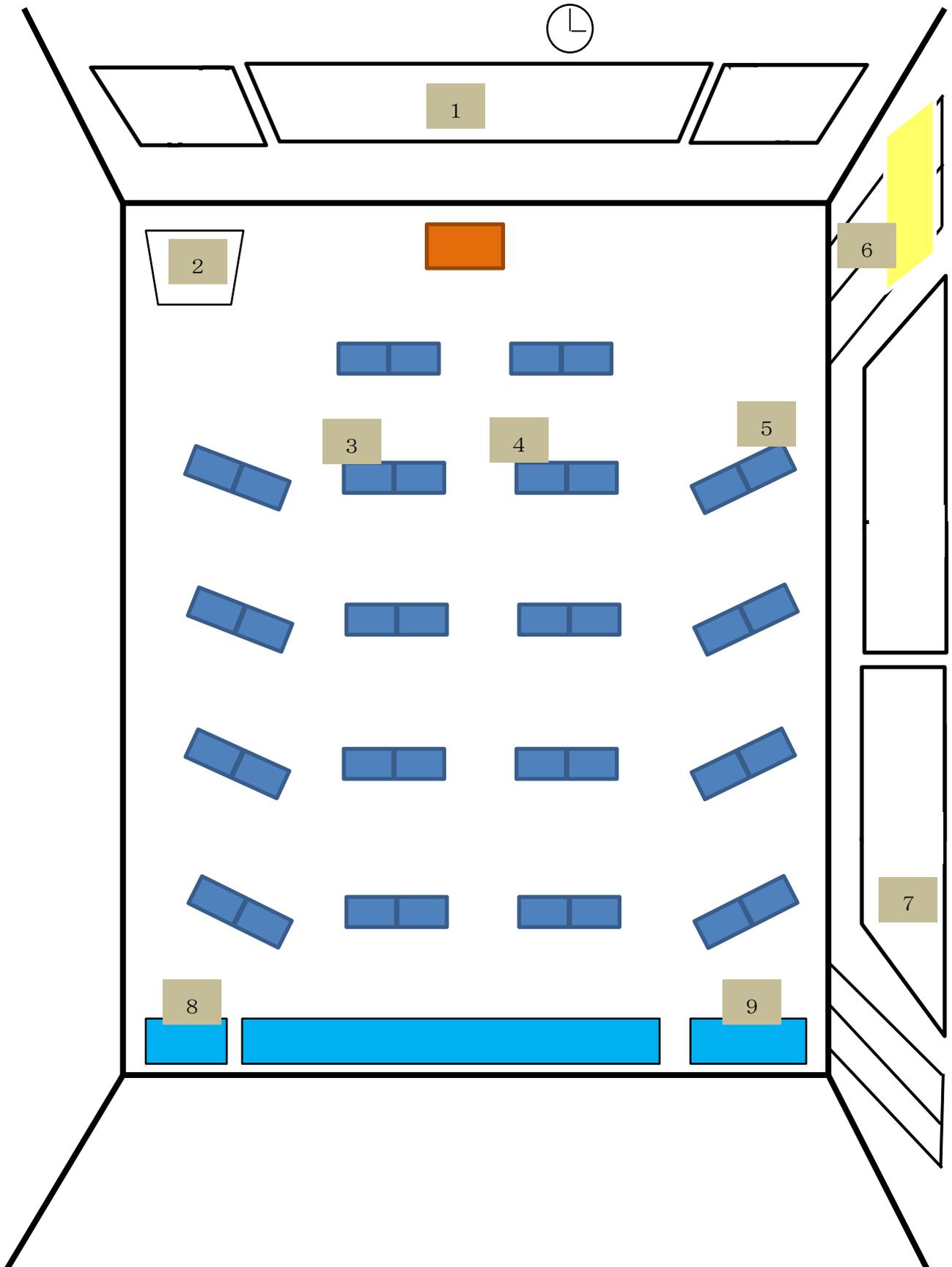
この実態を参考に、個別指導計画を作成しましょう



②だれにも優しい、ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備※7

注釈

※7 全校共通した教室環境を整備（次ページ以降と合わせて参照）



- ① 教室正面には、何も貼らず、周りはすっきりさせて、黒板に集中しやすいようにする。



授業中、気が散らないような配慮

- ② 連絡事項等は、ミニホワイトボードに貼り、連絡が終わったら、生徒の視界から外す。



朝の学活が終了したら他の場所に移動

- ③ テニスボールで机・椅子の脚を覆い、消音する。



特定の生徒にとっては、机椅子の移動の音は頭を刺すような痛みを与える。

- ④ 机を整理しやすいように定位置にマークをする。



班活動が終了したら元の場所に移動

- ⑤ 両サイドの机はやや真ん中に向け、生徒が黒板を見やすいような配置をする。



黒板に向けて集中しやすい配慮

- ⑥ 授業中の前のドアはカーテンで目隠しをする。

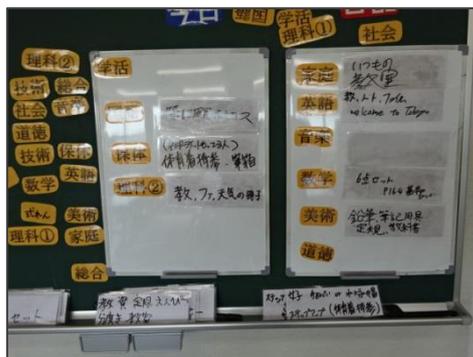


授業中に気が散らないような配慮。  
ただし、後ろのドアはカーテンを開けておく

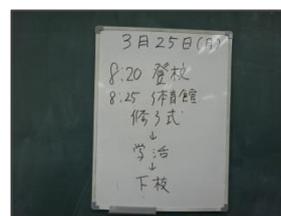
⑦ 今日と明日の連絡は、移動できるようにホワイトボードにする。



ホワイトボードで持ち物等の徹底



何度も使用する記入事項はマグネットで



重要な時には正面に

⑧ 掃除ロッカー等については整理・整頓を心掛け、片付け方は誰でも分かりやすいように明確にする。



片付け方の見本を提示



目につきやすいところに貼り付け



⑨ カバンを後ろに置き、グループ活動や机間指導を行いやすいようにする。



カバンは後ろの棚に整理。グループ活動や机間指導がし易い環境を整える。

### ③ 「ほっと<sup>※8</sup>ルーム（校内適応指導教室）」を活用した自立支援

#### ＜ほっとルームの設置目的＞

ほっとルームは、自学自習を基本として、不登校傾向等の生徒のために活用する部屋である。この部屋では、日直教員の巡回の他、学年教員や担任が中心となって支援を行い、生徒の困り具合を理解していく。これらによって、一人一人の生徒の悩みや不安などの原因を把握し、教室復帰や他機関につなげる事を目的とする。

#### ＜利用の範囲＞

各家庭からの申請<sup>※9</sup>に基づき、以下の理由等について校長が認めた生徒

- ・特別な支援が必要な生徒に対する個別の支援
- ・不登校傾向等の生徒への支援
- ・生徒のカームダウン（でん） 等
- ・その他 管理職が認めた生徒

#### ＜教職員の連携＞

担任や学年教員を中心に、特別支援教育コーディネーターと教育相談担当者（スクールカウンセラーや心のふれあい相談、スクールソーシャルワーカー）を含む全職員が、利用する生徒についての共通理解を図るために、様々な機会を捉えて情報交換を行う。

#### ＜報告体制＞

ほっとルームの利用後は、日誌等を通して状況を報告し、各担当者の指導が組織的に行われるようにする。また、日直が必ず午前中に数回校内巡回を行い、確認する。

#### ＜利用の流れ＞

**担任に相談** ⇒ 管理職との**面談** ⇒ ほっとルームの**見学もしくは体験**  
⇒ **申請書の提出** ⇒ 校内委員会にて検討 ⇒ 管理職との**面談**  
⇒ ほっとルームでの**支援開始** ⇒ 管理職等による**定期面談**

#### 注釈

※8 「ほっと」とは、この部屋に来ると生徒が、安心して「ほっと」できることを意味しています。

※9 ほっとルーム活用申請書記載事項

活用希望生徒氏名、保護者名、申請の理由（本人が考えていること、保護者が考えていること）、活用希望の時間帯、指導開始希望日等

## <参考>

### 1 ほっとルームの様子

あくまでも自学自習が基本であるため、個別のスペースを設置



自己にあったペースで自学自習  
希望に応じてタブレット学習やドリルの配布

ほっとルームは1と2があり、利用する部屋については総合的に判断し、決定



ほっとルーム1はやや開放的で、ほっとルーム2は、やや狭い環境でより落ち着ける環境を設定

基本的に一日中カーテンが閉められている。



担任、学年教員、日直の先生等が入り出りますが、利用者以外の生徒の入室は認められていません。

休み時間にほっと出来る空間



休み時間は教室から出て、他生徒とも会えますが、基本的には、この部屋で一日過ごします。

### 2 ほっとルームの約束

#### <基本的事項>

- 開室時間は午前中を原則とする。(給食については、保護者と相談)
- 登校時は、必ず、職員室に来室し、学年、クラス、氏名を伝え、日誌を受け取る。
- 利用日は、必ず「日誌」を記入する。
- 下校時に、次の利用予定日と登校予定時間を確認し、日誌を提出する。
- 授業時間に合わせて行動する。

注意：授業中(50分間)は学習時間とし、同室の生徒とのおしゃべり等はしない。  
スクールカウンセラーや担任との面談は、授業時間中に行うことがある。(相談室等を利用)

- ・休み時間（10分間）は、談話スペースでおしゃべりをしたり、ほっとルーム以外の場所で、ほっとルーム利用者以外の友達と会ったりすることも可能とする。  
※トイレの利用や給食の片付け等は、授業時間中に行ってもよい。
- ・他の利用者等への配慮から、利用生徒以外をほっとルームに入室させない。また、プリント等を持って行くなどの連絡についても同様とする。

#### <学校行事の日について>

- ・運動会や合唱コンクール、入学式、卒業式等の儀式的行事など、全校での取組を行う行事の日については、ほっとルームは開室しない。
- ・校外学習等の学年行事で、在籍学年が校外に出るときは、原則ほっとルームの利用はできない。ただし、宿泊行事については、他の生徒と同様に出席に関わる配慮をできる限り行う。

#### <定期考査について>

- ・定期考査の日は、「①教室で受験 ②別室で受験 ③欠席」のいずれかとし、ほっとルームは開室しない。

#### <その他>

- ・あくまでも、教室登校への復帰や、他機関への接続等を目的に利用を認めているため、定期的に管理職等との面談を行う。
- ・遅刻、早退等の扱いについては、本人の状況を踏まえ、保護者等と相談の上対応する。



### (3) 関係機関との連携強化

#### ① スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による面談

「気になる生徒」については、可能な限り関係機関等との連携を行い、支援の充実を図っていく。そのためにも、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を充実させる。

#### ② 教育機関（巡回指導、教育相談室、適応指導教室等）との連携

学校以外における教育機関についての情報提供を保護者に適切に行うとともに、各生徒にあった支援を共有していく。

- ・ 特別支援教室を含む巡回拠点校（八坂中学校みどり緑学級）
- ・ 教育相談室
- ・ 適応指導教室「トライ」※10

#### ③ 他の専門機関（医療・福祉等）との連携

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの他、教育相談室等から助言を受け、教育機関だけではなく、他の専門機関との連携を充実させ、総合的な支援を行えるよう学校が働きかける。

### 注釈

#### ※10 トライ入室のしおり

○入室を希望される方は、まず下記へご連絡ください。  
 <問い合わせ・相談>  
 練馬区立学校教育支援センター 適応指導教室「トライ」  
 郵便番号 179-0072 住所 練馬区光が丘6-4-1  
 電話 6385-9911（代表）

**案内 交通手段**

○都営地下鉄大江戸線（光が丘駅A4出口 徒歩10分）  
 ○西武池袋線（練馬高野台駅 西武バス 練馬01 成増駅行 光が丘6丁目下車 徒歩4分）  
 ○西武池袋線（石神井公園駅 西武バス 西60 成増駅行 高松大門通り下車 徒歩4分）  
 ○東武東上線（成増駅 西武バス光31 光が丘駅行 光が丘6丁目下車 徒歩4分）

## トライ入室のしおり

— 学校生活への復帰を目指して —

**1 トライって！**  
 練馬区立学校教育支援センター内にあります。  
 区内在住の中学生で不登校の状態にある生徒に対して、さまざまな悩みの相談や学習・集団活動などを通して、自尊心や自ら学ぶ力、社会的能力を育て、学校生活に復帰できるよう支援する適応指導教室です。

**2 申し込み（入室までの手続き）はどうするの！**

- ① 学校に相談して、入室に必要な書類一式（「適応指導教室入室申請書」「通学経路」など）を学校から受け取ります。
- ② 電話により申し込みを行い、お子様と保護者の初回面接（インターク）の日時を決めます。
- ③ 初回面接（インターク）では、書類を提出していただくとともに、お子様と保護者が室内に面接を行います。
- ④ 入室情報交換を経て入室が決定されます。

**3 活動日などは！**

【開室期間】 4月から翌年3月までの期間  
 【開室日時】 月曜日から金曜日 9:30～14:20  
 【開室場所】 学校教育支援センター 適応指導教室「トライ」  
 【指導員】 トライ担当の一般教育相談員および心理教育相談員  
 【指導内容】

- ① **学習指導** 国語、社会、数学、理科、英語について基礎学力の定着を図り自ら学ぶ力を育てます。
- ② **体験的活動** 体育館・校庭でのスポーツ（O'DO、ソフトボール、卓球他）PCの基本操作（文章作成、インターネット検索）などの体験を通して体力向上をはじめ情報活用能力等、生きる力の育成につなげます。

- ③ **集団活動** 「ふれあい」の時間では、会話やゲームを楽しむ、その他集団活動の中でコミュニケーション能力を育成し、自分と他者のより良い関係を築いていきます。
- ④ **進路学習** 進路の時間では、自らの生き方や中学卒業後の進路について考え、自らの可能性を広げていきます。
- ⑤ **行事を通して** 遠足、料理教室などの体験活動の行事を通して社会性を育成し、豊かな感性を培います。

**4 学校等との連携** 保護者や学校、関係機関と密接に連絡をとり、学校復帰に向けた支援をします。

**4 相談活動を重視します**

- ① 心理教育相談員が個別カウンセリングや小集団でのセラピーを行い、心の安定を図り、人間関係が広がるよう支援や指導を行います。
- ② 生徒の希望に応じて、個別に面談の時間を設定します。

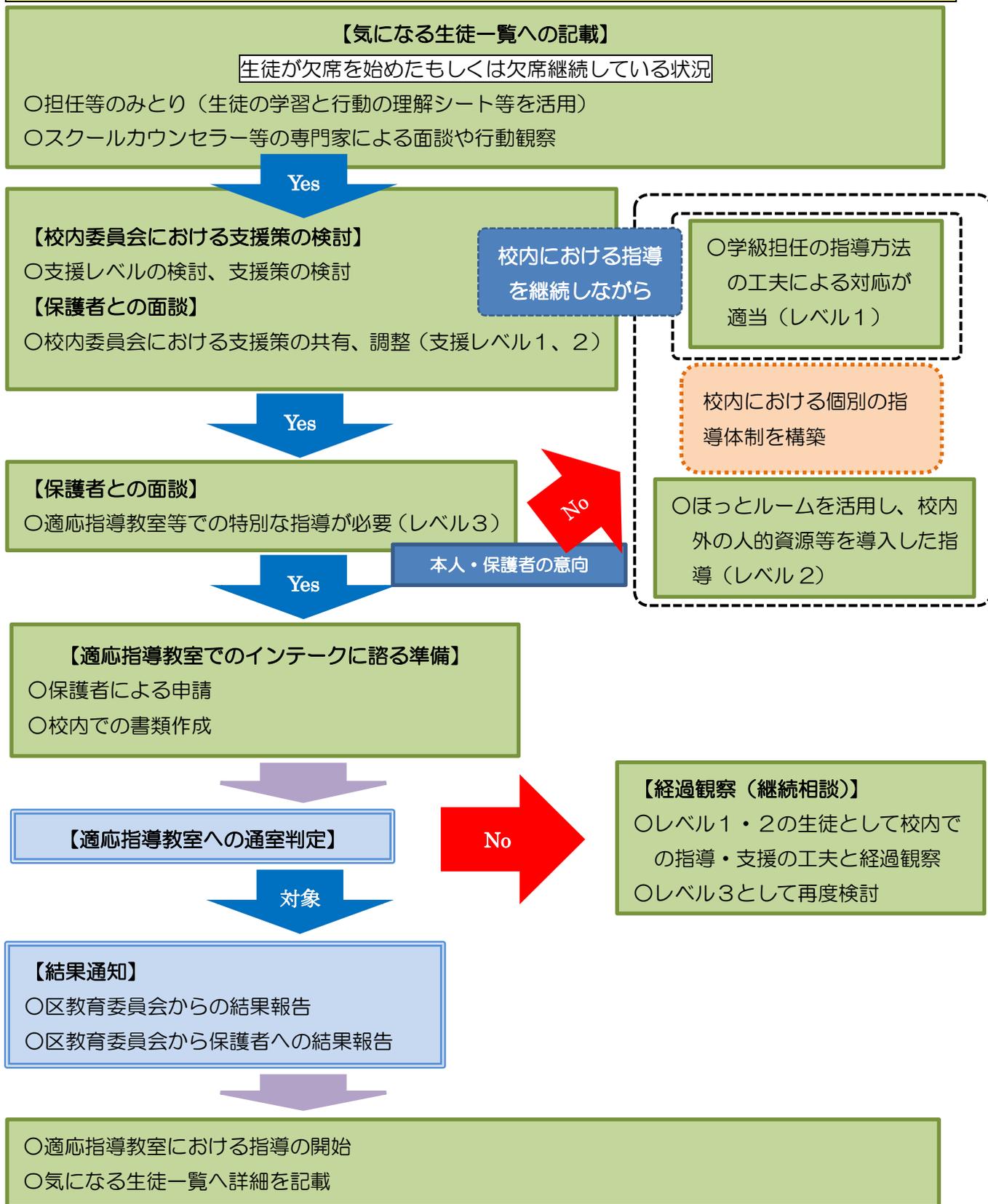
**5 その他**

- ① トライの欠席が続いている場合は親子面談を行い今後のことについて話し合います。
- ② 学年定期制をとっていますので、年度ごとに継続・退室の手続きが必要ですが、

13

### 3 気になる生徒への支援の流れ

#### (1) 登校支援の視点からの支援



## (2) 特別支援教育の視点からの支援

### 【気になる生徒一覧の作成】

- 担任等のみとり（生徒の学習と行動の理解シート等を活用）
- スクールカウンセラー等の専門家による面談や行動観察
- 心理検査等による状況判断 等

Yes

### 【校内委員会における支援策の検討】

- 支援レベルの検討、支援策の検討

### 【保護者との面談】

- 校内委員会における支援策の共有、調整（支援レベル1、2）

校内における指導  
を継続しながら

- 学級担任の指導方法の工夫による対応が適当（レベル1）

校内における個別の指導体制が必要である

Yes

### 【保護者との面談】

- 特別支援教室等での特別な指導が必要（レベル3）

No

本人・保護者の意向

- ほっとルームを活用し、校内外の人的資源等を導入した指導（レベル2）

Yes

### 【特別支援教室等就学支援委員会に諮る準備】

- 保護者による申請
- 校内での書類作成

### 【特別支援教室等就学支援委員会の判定】

No

対象

### 【経過観察（継続相談）】

- レベル3として次回以降の就学支援委員会での再提出
- レベル1・2の生徒として校内での指導・支援の工夫と経過観察

### 【結果通知】

- 区教育委員会からの結果報告
- 区教育委員会から保護者への結果報告

- 特別支援教室による巡回指導の開始（学校生活支援シート及び連携型個別指導計画、教育課程の作成）



気になる生徒への支援の充実について  
～登校支援と特別支援教育の充実～

平成31（2019）年4月22日 発行

発 行 者 練馬区立大泉西中学校

所 在 地 〒178-0065  
東京都練馬区西大泉3-19-27

電 話 03-3921-7103

